トピックス

一般国道 342 号須川～真湯間が待望の開通!!

～　地域の強い思いで被災から２年を経ずに開通　～

砂 防 災 害 課
県南広域振興局土木部 一関土木センター

岩手県内陸南部を震源とするマグニチュードが 7.2 で県内観測史上最大の震度６強を記録し、甚大な被害をもたらした「平成 20 年岩手・宮城内陸地震」から約２年が経過しました。

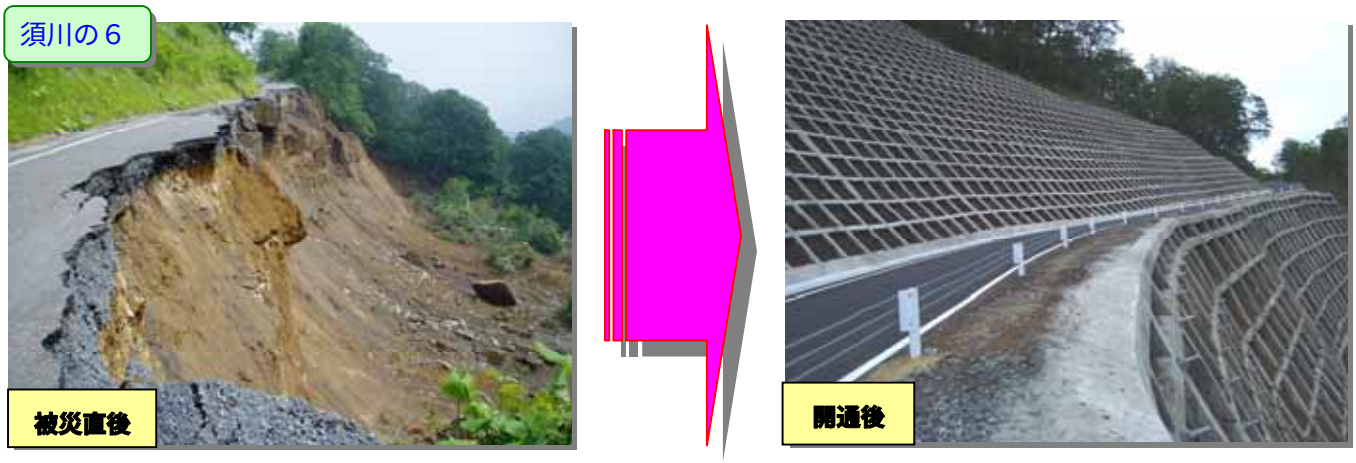
地震により、大規模な土砂崩落などの被害を受け、全面通行止めとなっていた一関市厳美町の一般国道 342 号須川～真湯間約 15km は、復旧工事が概成し、平成 22 年５月 30 日正午に開通しました。

１．復旧概要

今回開通した須川～真湯間は、地震による被災で、道路が消失するほどの大規模斜面崩壊が４ヶ所発生したほか、路面の地割れや隆起などが多数発生し、被災直後から全面通行止めとなっていました。本区間は、栗駒国定公園内に位置し、秋の紅葉シーズンには、県内有数の観光スポットとして多くの観光客が訪れるほか、春の新緑、夏の登山、温泉など本県を代表する行楽地の道路として、一日も早い復旧が望まれていました。

本格的な復旧工事は、平成 21 年３月に始めましたが、本区間は、積雪が多いため、冬期間は工事ができないという時間的制約や、急峻な地形と道路幅員が狭いことによる作業スペースの制約などがあり、当初、開通まで３年はかかると見込んでいましたが、工期短縮に向けた工事施工者の取り組みなどもあり、**地震から２年を経ずに開通**することができました。

また、災害復旧工事に併せて、**車両同士のすれ違いが困難な箇所の解消等を図るため、**拡幅や待避所の設置等による「1.5 車線道路整備」も実施し、**震災前よりも安全性・快適性に優れた道路**になるよう整備しました。



烏帽子の２

２．開通イベント

今回の開通を契機として、災害からの復旧・復興を広く県内外に伝え、多くのお客様に訪れていただくため、岩手・秋田両県と一関市が連携し、開通前日から当日にかけて、様々なイベントを開催しました。

開通前日は、２倍以上の一般応募者から抽選で選ばれた 342 名による須川～真湯間のウォーキングや、12 チーム 60 名によるリレーマラソンが行われ、新緑に包まれたコースを歩きながら復旧状況を目の当たりにし、参加者からは驚きの声が上がっていました。

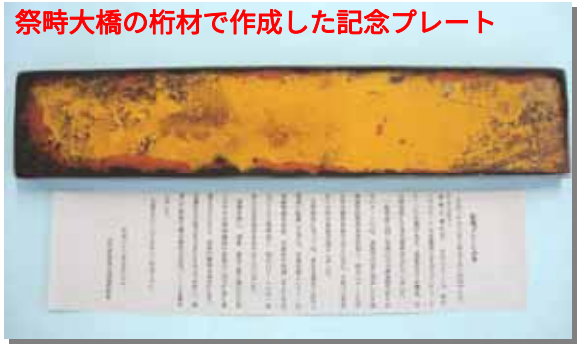
開通式当日は、快晴に恵まれ、真湯ゲート前でテープカット・くす玉開披などの開通式典や、開通の記念碑『復興之碑』の除幕などを行い、開通を盛大に祝いました。開通の記念碑『復興之碑』は、達増知事が揮毫し、地震による水枯れのために烏帽子地区から一つ石地区に移設した湧水施設「ぶなの恵」の一角に設置しました。

山頂の須川ゲート付近では、岩手・秋田両県知事、一関市・東成瀬村両首長などによる握手・万歳三唱や、国道 342 号にちなんだ 3,420 個の餅まきなどの開通イベントが盛大に行われ、開通を心待ちにしていた多くの観光客で賑わいました。

『復興之碑』除幕式

岩手・秋田両県知事による餅まき

また、岩手県では、地震の記憶を身近にとどめてもらおうと、岩手・宮城内陸地震で崩落した祭畤大橋の桁材から作成した記念プレートを先着 500 名にプレゼントしました。プレートは、鉄鋼材の橋桁を長さ約 25cm、幅約５cm、厚さ約９mm（重さ約 900g）に加工したもので、さびや傷はあえて磨かずに、一関土木センター職員が油を落とし、ワックスを塗って仕上げました。


祭畤大橋の桁材で作成した記念プレート

３．最後に・・・

今回開通した須川～真湯間は、一部は片側交互通行となっていますので、今後とも早期完成に向けて整備を進めていきます。また、崩落した祭畤大橋の架け替え工事についても、平成 22 年度中の完成に向けて整備を進めていますので、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いします。

須川温泉では、開通から約 2 週間たった現在も、駐車場は平日でもほぼ満車状態となっており、大規模な被災から復興した本地域への人々の期待や関心の高さがうかがわれます。

今回の開通を契機として、被災以前にも増して地域の観光や経済が活力に満ち、交流が一層促進されることを期待しています。

皆さま、是非、復興した本地域にお越しください！

須川温泉で足湯を楽しむ観光客